

小説の一部を脚本化しよう

ねらい

- ・目的や意図に応じて、必要な情報を選択したり整理したりする力
- ・目的や意図に応じて、伝えたい事柄が相手に明確に伝わるように書く力を付ける！

単元・授業の流れ

指導のポイント（留意点）

ア 見通しをもつ（意識化）

- 1 アンケートに記入し、課題を明らかにする。
- 2 既習の文学的な文章を劇の脚本に書き換える。
- 3 学習課題を設定し、学習計画を立てる。

実際の脚本と照らし合わせながら学年劇の映像を見たり、短い文学的な文章を脚本化したりすることによって、脚本がどういうものを理解させる。

《手立て》

- ・実物資料を提示して具体的なイメージをもたせる。
- ・言語活動のモデルとして文学的な文章の脚本化することで脚本の書き方を知らせる。
- ・ワークシートや生徒用手引きを活用する。
- ・学習計画表で学習の見通しを示す。

身に付ける

イ 習得 ←→ ウ 活用

- 4 情報の収集をする。
- 5 脚本化する場面の情報を目的に合わせて整理・編集する。
- 6 主なせりふを書き出す。
- 7 ト書きやナレーションなどを書き出す。
- 8 下書きをする。
- 9 清書をする。
- 10 自己評価をする。

言語活動を通じた指導

（文学的な文章の一部を劇の脚本に書き換える。）

もとの小説の設定や表現を生かしながら、役者（読み手に伝えたいことが伝わるよう表現を工夫して脚本化をさせる。（習得 ↔ 活用）

- ・分かりやすい脚本の書き方や、伝えたいことが明確に伝わる表現の工夫について考えさせる。
- ・「少年の日の思い出」を読み、実際に演じる役者に登場人物の人物像が伝わるように、作品中の描写を根拠にして必要な情報を選択するよう助言する。
- ・相手に伝えたいことが明確に伝わるように情報を整理し、表現を工夫して文学的な文章の一部を脚本化させる。

《手立て》

- ・脚本の構成を考え、表現を工夫する際にスモールステップによる学習活動を行う。
- ・まとめ方や表現の仕方のモデルを提示する。
- ・ワークシートや補助資料等、学習活動を補助する資料を活用する。

エ 振り返る（定着）

- 11 リーフレットを相互評価する。
- 12 学習のまとめをする。

提示されたモデルや学習活動を通して学んだ書き方のポイントを生かして書くことができたかを評価させる。

《手立て》

- ・付せんや評価表を活用して、グループ内での相互評価と全体での意見交流会を行う。
- ・学習計画表で単元の学習を振り返る活動を行う。